

令和3年度全国学力・学習状況調査結果について

彦根市教育委員会
令和3年9月

令和3年5月27日（木）に、全国学力・学習状況調査が実施されました。
今回の調査を分析して、この調査から見てきた本市児童生徒の学力と学習状況に関する結果をお知らせします。

調査の目的・内容

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年 中学校第3学年 原則として全児童生徒

(3) 調査事項

①児童生徒に対する調査

ア：教科に関する調査（国語 算数・数学）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は以下のとおり。

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

イ：質問紙調査

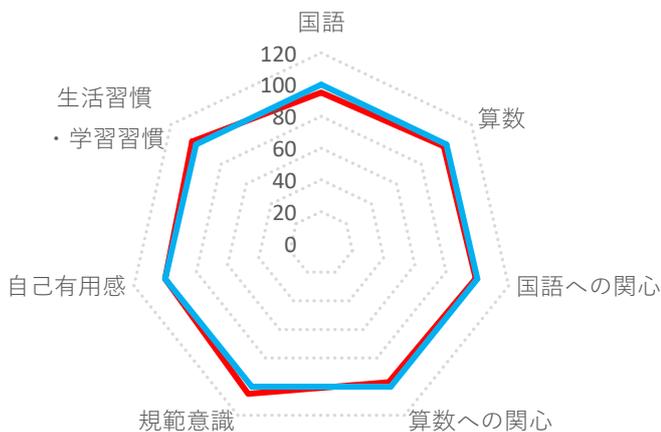
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等

②学校質問紙調査

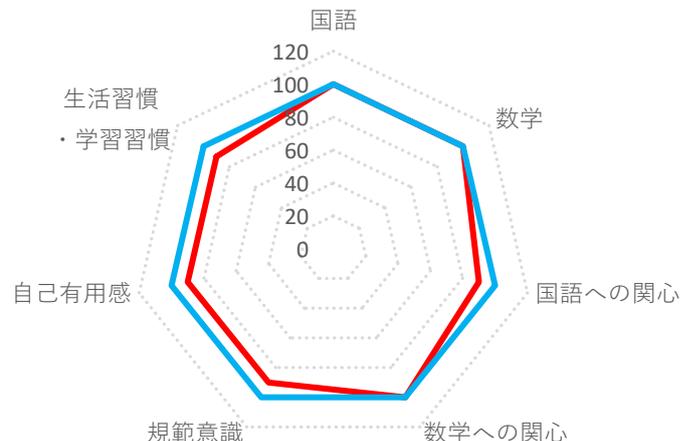
学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等

調査結果の概要

小学校

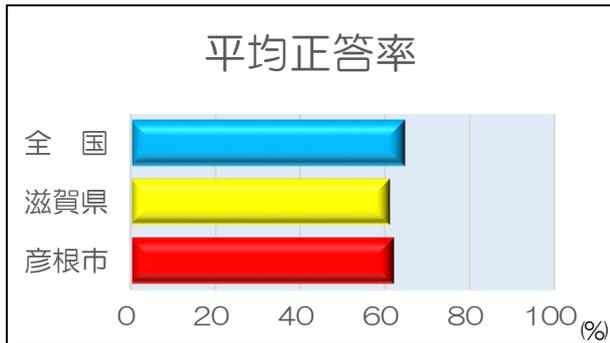


中学校

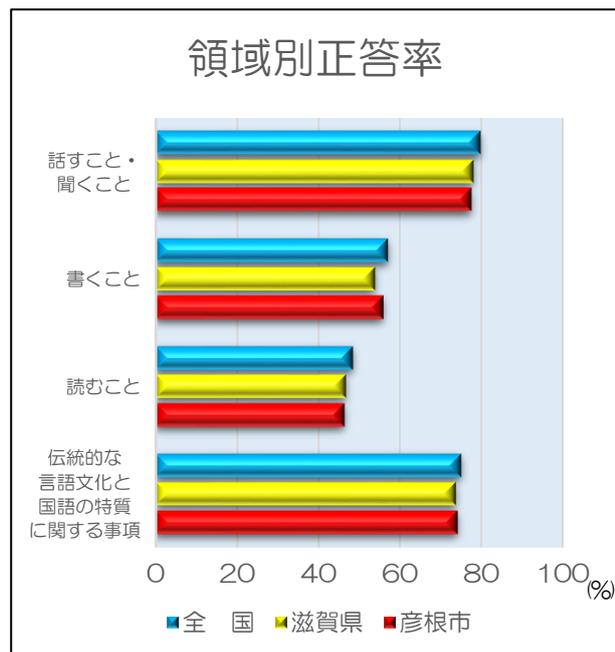
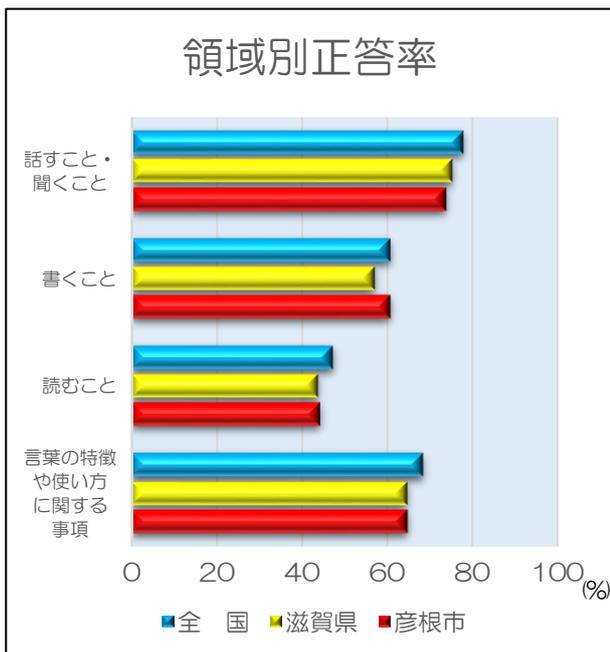
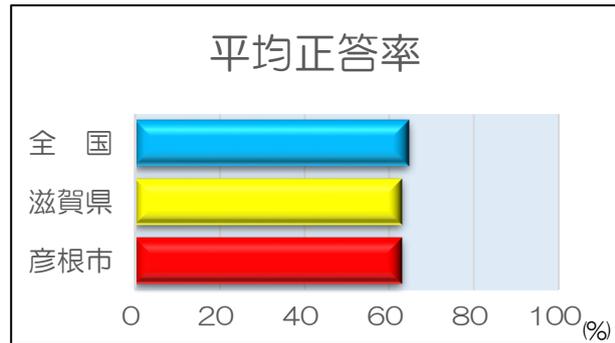


*全国の値を100としたときの市の値を表しています。■全国 ■彦根市

小学校（全14問）



中学校（全16問）



この調査から分かること

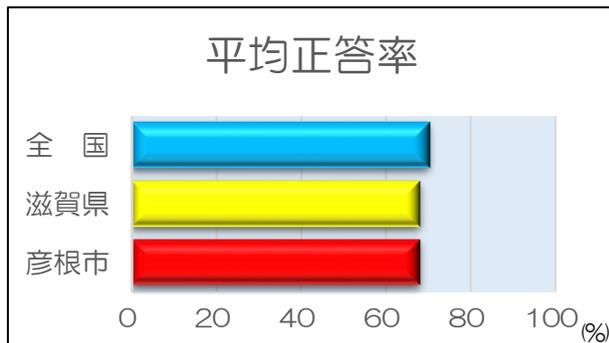
(結果の概要)

- 平均正答率は、小学校・中学校ともに全国を下回りました。
- 領域別正答率を見ると、小学校では、「書くこと」の領域では全国平均と同じでしたが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域で全国平均を下回りました。中学校では、全ての領域で全国平均を下回りました。
- 小学校の記述問題では、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表す問題で全国平均を上回ることができましたが、文章と図表との関係を捉えて読み、まとめて書き表すことに課題が見られました。中学校では、文中の表現を引用したうえで、自分の考えを書くことに課題が見られました。
- 小・中学校共に、記述式問題の無回答率が全国平均よりも高い傾向でした。

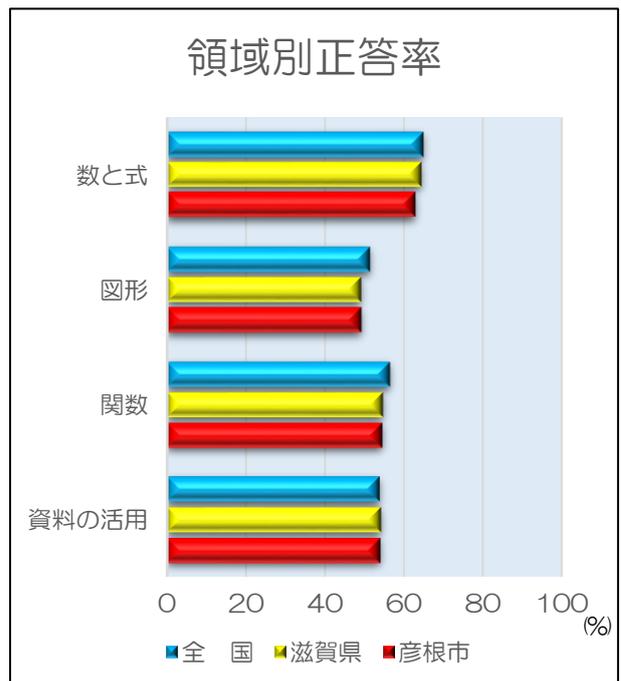
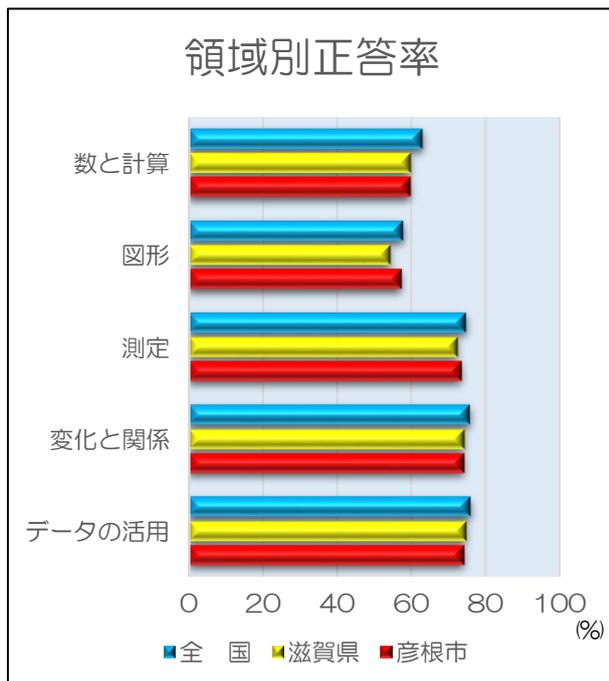
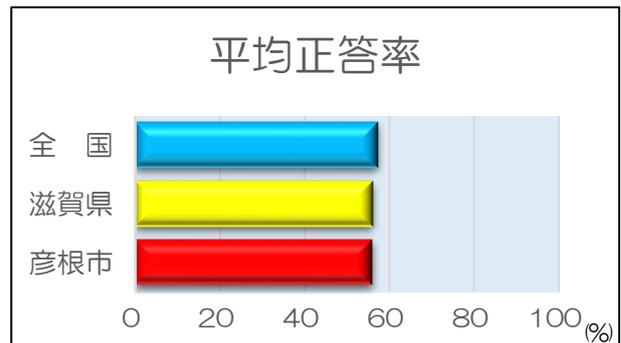
(求められる力)

- 目的に応じて文章や図表を結びつけながら、必要な情報を見つけ、自分の考えを書き表す力を身に付けることが求められます。
- 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の伝えたいことを考えながら聞いたりして、自分の考えをまとめる力が求められます。

小学校（全14問）



中学校（全16問）



この調査から分かること

(結果の概要)

- 平均正答率は、小学校・中学校ともに全国を下回りました。
- 領域別正答率を見ると、小学校では、全ての領域で全国平均を下回りました。中学校では、「資料の活用」の領域では全国と同じでしたが、「数と式」「図形」「関数」の領域で全国平均を下回りました。
- 小学校では、学習したことを日常の場面にあてはめて活用することに課題が見られました。中学校では、表やグラフを目的に応じて読み取り、情報を処理することについて理解できていましたが、数量や図形の性質に着目して、事柄が成り立つ理由を説明することに課題が見られました。
- 小・中学校共に、記述式問題の無回答率が全国平均よりも高い傾向でした。

(求められる力)

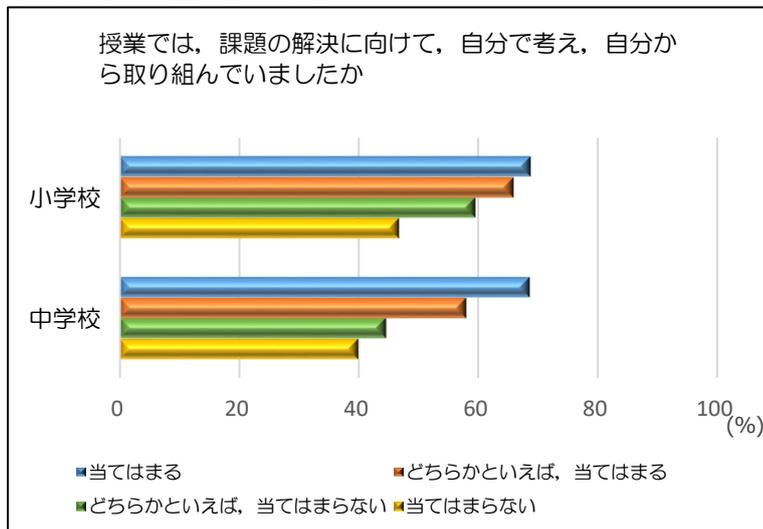
- 式や答えの表す意味について、日常場面と結びつけて理解できる力が求められます。
- 表やグラフの読み取りなどにとどまらず、目的に応じてデータを分類整理したり、データの特徴や傾向を読み取ってまとめたりする力が求められます。
- 説明すべき事柄について、その根拠と成り立つ事柄を示して理由を説明する力が求められます。

教科に関する調査と質問紙調査とのクロス集計から

教科に関する調査と、児童生徒質問紙調査の関連性から、以下の傾向が見えてきました。

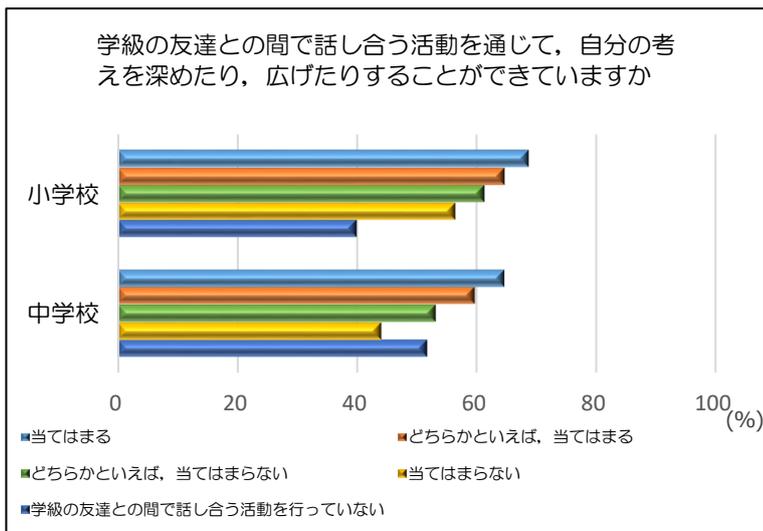
※グラフは、各質問項目において、それぞれの選択肢における「国語・算数（数学）」の正答率の平均値をあらわしたものです。

○授業力の向上の観点から



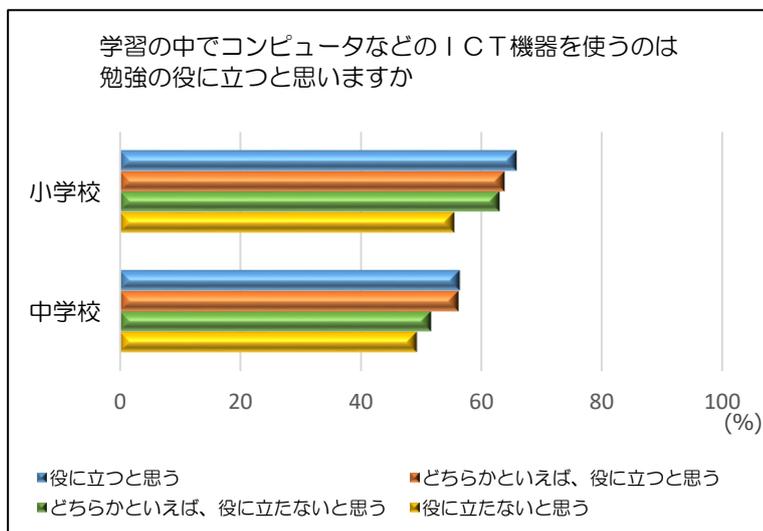
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという結果でした。

子どもの「なぜ?どのように?」といった疑問に寄り添い、「～したい!」という気持ちを大事にして、「好奇心・探求心」を育む授業を推進していきます。



「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという結果でした。

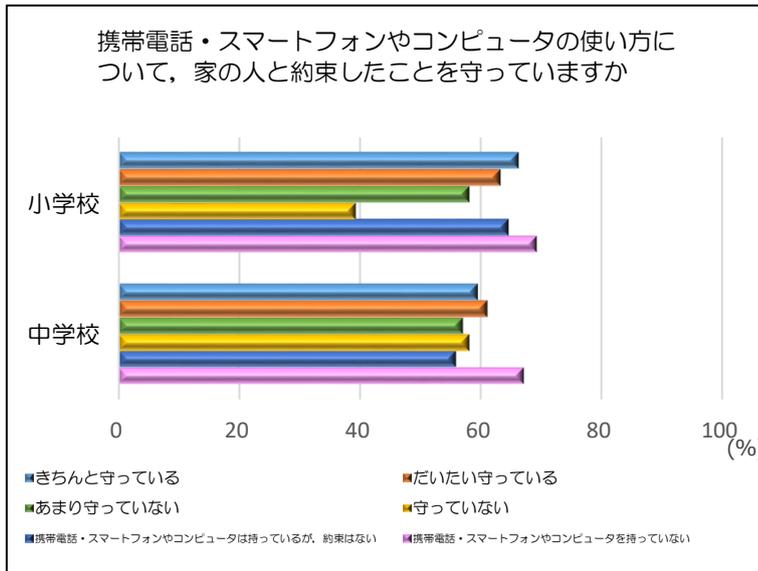
対話を通して、自分の考えを確かめたり、広げたりして理解を深め、確かな学力の向上につなげていきます。



「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという結果でした。

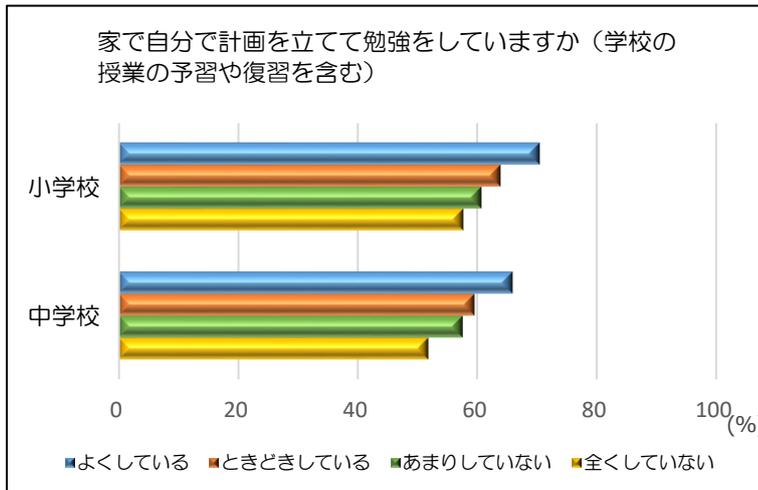
確かな学力の向上に向けて、ICT機器を効果的に活用した授業づくりを進めていきます。

○家庭学習の充実の観点から



「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという傾向がありました。

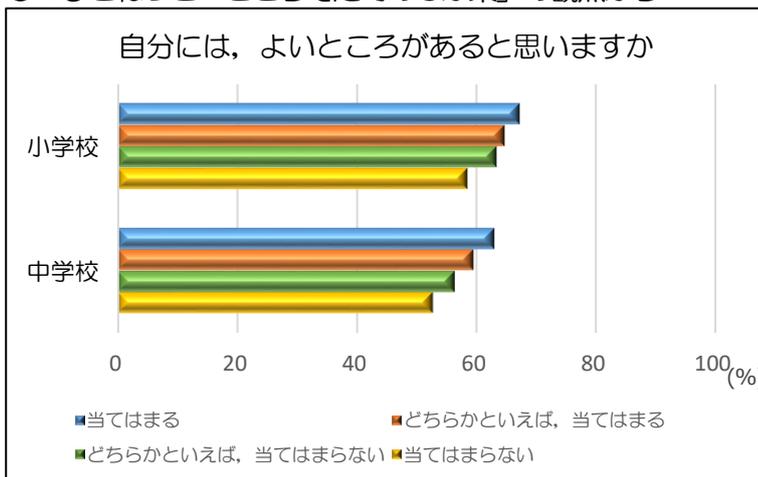
情報ツールの活用について自分で判断し、行動できる力を身に付けることは、情報活用能力を育むことにもつながります。



「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという結果でした。

学習内容の確かな定着に向けて、家庭での学習を習慣化させることを目指し、今後も中学校ブロックごとの共通実践を進めていきます。

○「ひこねっこ ころそだての6か条」の観点から



「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに肯定的に回答した子どもは、教科の正答率が高いという結果でした。

子ども達が自己肯定感を高め、学習に向かうよう、個々のがんばりを励まし見届けることが大切であると考えます。

この調査から分かること

- 主体的に学習に取り組んだり、話し合い活動に参加したりする児童生徒は、調査問題の正答率が高い結果でした。今後も、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業を推進していきます。
- 携帯電話やスマートフォン等の適切な使用について、家庭と学校で協力して取り組むことが大切であると考えます。
- 今後も子どもに寄り添い、自己肯定感を高め、よりよい生活を送れるよう、家庭、地域、学校とが連携して、関わっていくことが大切であると考えます。

「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ こころそだての6か条」について

彦根市教育委員会では、これからの時代を生きるうえで重要な「非認知能力」を子どもたちに育むことをめざして、「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ こころそだての6か条」を令和2年度に作成しました。子どもの身近にいる大人の考え方や言動等は子どもの非認知能力を育てるための重要な環境であることから、子どもたちへのメッセージと共に、大人たちへのメッセージも示しています。

全国・学力状況調査の児童生徒質問紙の回答状況について、「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ こころそだての6か条」の視点で分析し、彦根市の子どもたちの育ちについてまとめてみました。

- ＜非認知能力＞3つの能力とそれぞれの能力を構成する要素
- 目標の達成
 - ・忍耐力 ・自己抑制力 ・目標への情熱
 - 他者との協働
 - ・社交性 ・敬意 ・思いやり
 - 情動の制御
 - ・自尊心 ・楽観性 ・自信
- (出典 「非認知能力が子どもを伸ばす」中山 芳一 著 東京書籍)

彦根教育学びの提言 プラス
彦根市教育委員会

ひこねっこ こころそだての6か条

い

いいんだよ ありのままです！

★子どもは、大人の温かい関わりに安心や信頼を感じます。話をじっくり聞くこと、ありのままを認めることが大切です。

い

いっほ

一歩ふみだし やってみよう！

★「まず、やってみよう！」「なんとかなるよ！」と応援しましょう。小さな成功体験や失敗から学ぶ経験の積み重ねが、子どもの力を伸ばします。

な

まな

なぜ？どうして？は 学びのチャンス☆

★子どもの疑問に寄り添い、「～したい！」という気持ちを大事にして、探究心をはぐみましよう。

お

おも こころ

思いやりの心で つながろう！

★「自分なら・・・」「自分がされたら・・・」と一緒に考えながら、相手の気持ちを思いやる大切さを、子どもの心に届けましよう。

す

すこ じぶん

少しのがまん 自分のために☆

★目標達成に向けて、一緒に「計画をたてる」「ルールを決める」などして、時には我慢も必要なことに気づかせながら、自分で判断し行動できる力を育てましよう。

け

げんき ゆめ む

元気にチャレンジ 夢に向かって☆

★結果のみに注目したり他者と比べたりするのではなく、がんばりや成長をほめて励ますことが、子どもの次のやる気につながります。

「彦根教育学びの提言 プラス ひこねっこ ころそだての6か条」の視点での
児童生徒質問紙の分析について

※グラフの数値について、小数第2位以下は省略しています。

い

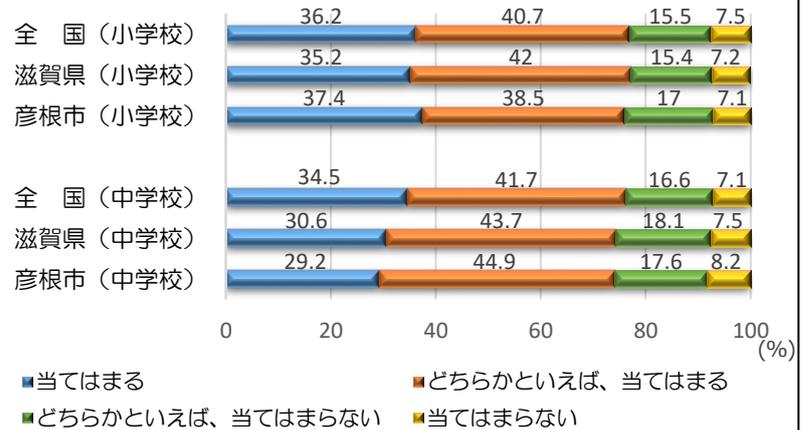
いいんだよ ありのままです！

小中学校ともに 70%以上の子どもが肯定的に回答しました。しかし、一部に肯定的でない回答も見られました。

予測が難しいこれからの社会の中で、自分に自信をもって生き抜けるよう、学校、家庭、地域において、子どもの話を聞き、良さを認め、励まし、自己肯定感を育むことを大切にしていきたいものです。



自分には、よいところがあると思いますか



い

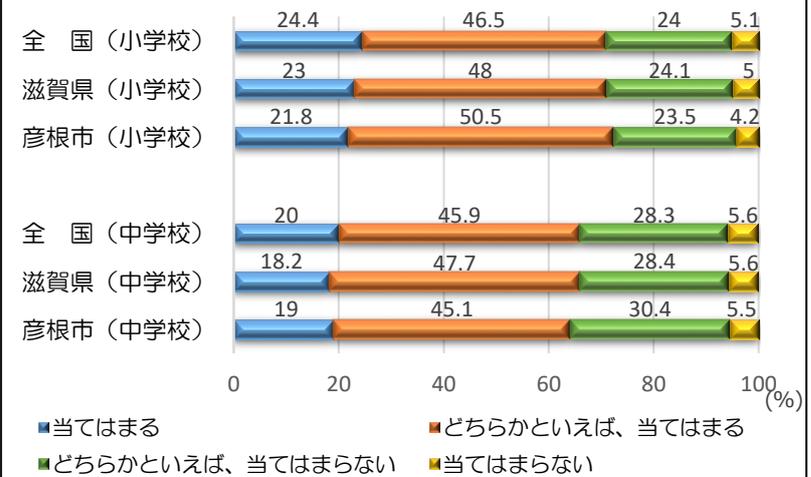
一歩ふみだし やってみよう！

小学校では70%、中学校では60%程度が肯定的に回答しました。

子どもの「やってみよう」という気持ちに寄り添い、そっと背中を押してあげてください。チャレンジしたことや、その過程をほめ、小さな成功体験や取組について振り返ることで、子どもは自信をつけていきます。



難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか



な

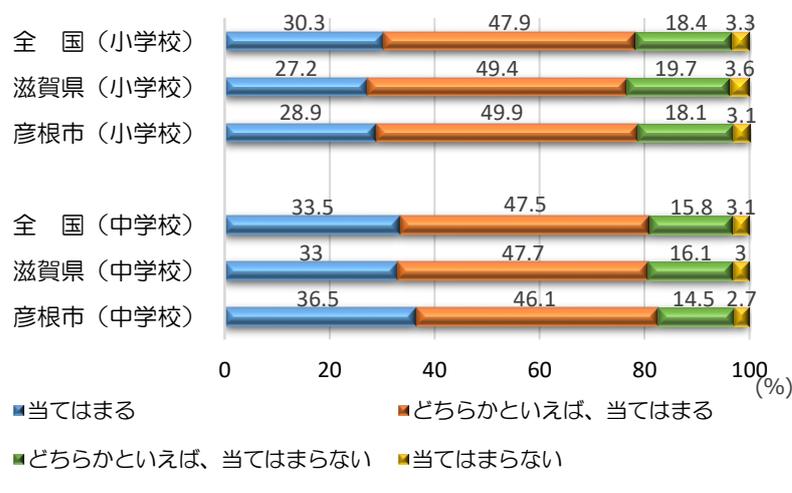
なぜ？ どうして？ は 学びのチャンス☆

小中学校ともに80%程度が肯定的に回答しました。

「探求心」は、思考力や観察力の土台となる力といえます。「探求心」を育てるために、子どもの疑問の気持ちに応える触れ合いを大事にしたいものです。



授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



お

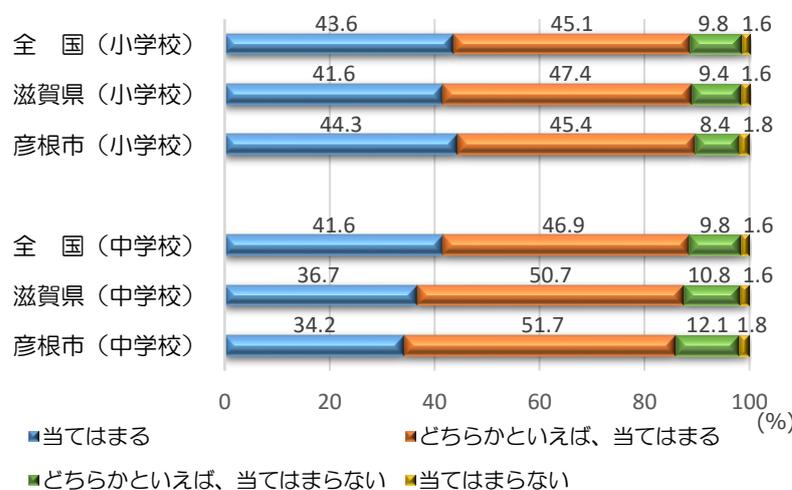
思いやりの心で つなごう！

「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに、小中学校ともに80%程度の子どもが肯定的に回答しました。

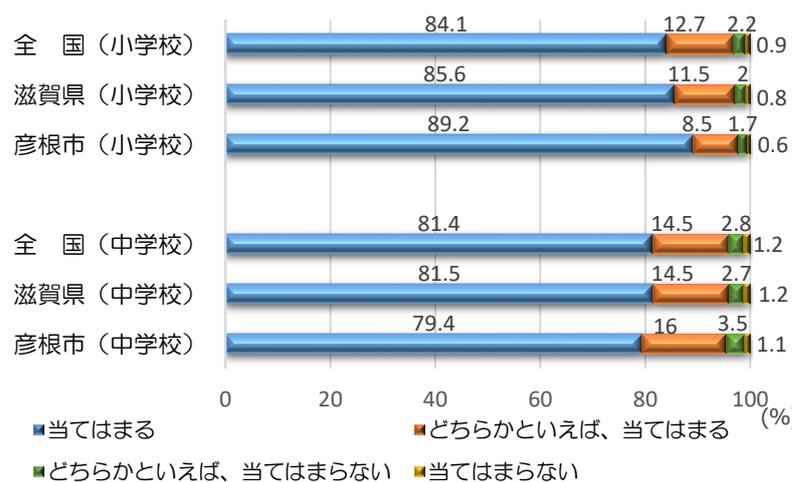
様々な出来事について、自分事として考えさせたり、大人からたくさんの優しさを子どもに届けたりすることで、子どもが相手の気持ちを察することができるようになり、思いやりの心が育まれていきます。



人が困っているときは、進んで助けていますか



いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



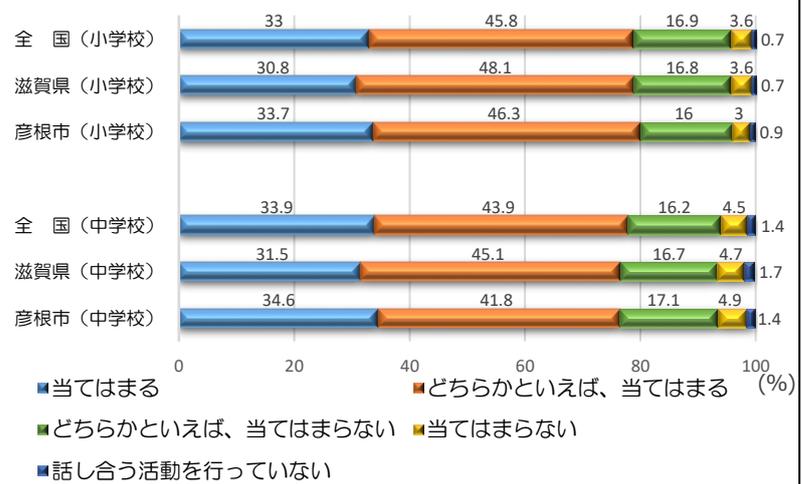
小中学校ともに75%以上の子どもが肯定的に回答しました。

学校ではコロナ禍において、安全に配慮しながら話し合う活動を適宜取り入れています。

話し合いを通して、自分の考えをもつとともに、考えをよりよいものに修正していく学びをさらに高めていきたいと考えます。



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



す

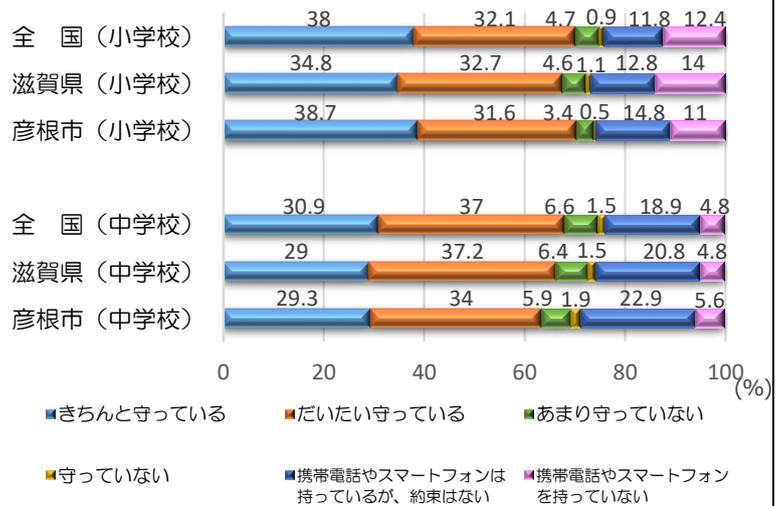
少しのがまん 自分のために☆

携帯電話やスマートフォンについての約束を決めている家庭の中で、約束を守っていると肯定的に答えたのは、小中学校共に約90%でした。

SNS(ソーシャルネットサービス)などの間接的なコミュニケーションツールを通じて、人と交流することが増えていますが、よりよい使い方について定期的に見直し、時には我慢も必要なことに気付かせながら、節度ある使い方ができる力を育てていきましょう。



携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか

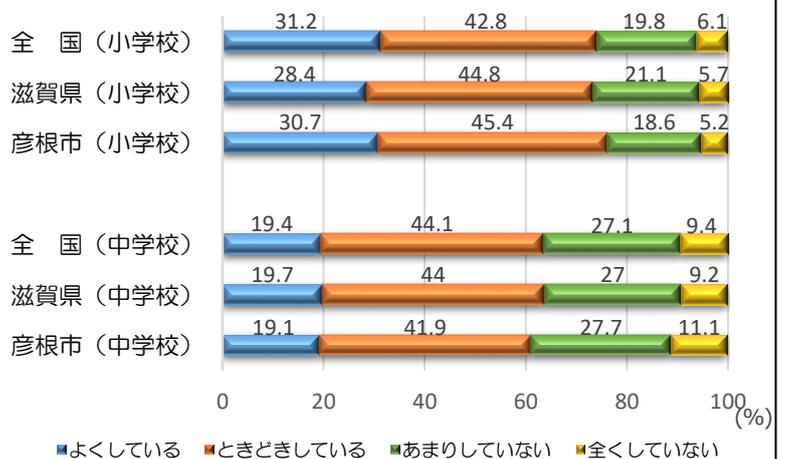


小学校では肯定的な回答が全国平均を少し上回りました。中学校では、60%程度が肯定的に回答しています。

最初は一緒に学習計画を立てたり、学習の取組具合を確かめたりして、子どもの成長を認め、徐々に自分で計画を立てて学習を進める習慣をつけていきましょう。



家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)



け

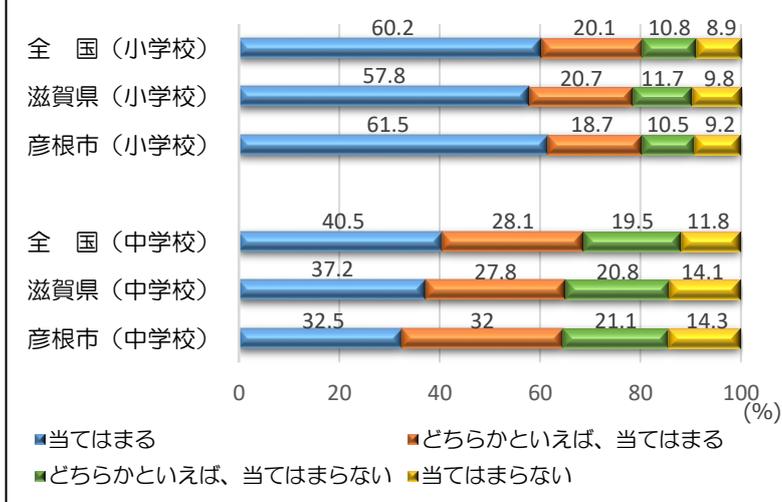
元気にチャレンジ 夢に向かって☆

小学校では、肯定的な回答が全国平均と同程度でした。中学校では、60%程度が肯定的に回答しています。

ほめられ励まされたときに感じる「嬉しい!」という気持ちが、子どもの次のやる気につながります。ほめるときは、些細なことでも後回しにせず、すぐにその場で伝えるように心がけましょう。



将来の夢や目標を持っていますか



保護者・地域のみなさまへ

変化の予測が難しいこれからの時代を生き抜くために、子どもたちには、主体的、自律的にキャリアを切り拓いていく能力の獲得と向上が必要不可欠です。そして、学校を離れてからも自立して学び続けることが必要になります。そのため、市教育委員会では、学習指導要領で示された3つの柱「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の育成を目指し、取組を進めています。とりわけ、「学びに向かう力・人間性等」の育成につながる「非認知能力」を伸ばすことが大切であると考えております。

今後、これらの調査結果をもとに学校と連携して課題の改善に努めてまいります。

学校では、学んだことを活用したり考えを伝え合ったりする学習を充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、子どもの心を育む授業づくりに努めていきます。

家庭や地域では、子ども達のがんばりを認め、温かいメッセージを伝えることで、安心してチャレンジできる環境づくりにご協力をお願いします。

学校、家庭、地域が一体となって、子ども達を見つめ、励まし、支えることにより、子ども達の学びを豊かにし、これからの新しい時代を生きるうえで重要な「非認知能力」を含めた「生きる力」の育成につなげていきたいと考えます。今後も一層のご協力をよろしくお願いします。